



平成29年10月31日(火)

藤 棚

第344号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

マスクへの不安

校長 小川義男

人相学では、顔に手をやるのは衰運の証拠、とされているそうである。「顔に手をやる男には金を貸すな」という言葉が、金貸しの世界にあったとも言ふ。勿論昔の話だ。銀行が庶民の間に普及する、ずっと昔の話である。

男子でも女子でも、あなたは、人と話すときに、顔に手をやる癖はないだろうか。あつて悪いわけではないのだが、私の人生経験では、自分に自信のない場合、顔に手を持って行く人が少なくないように思う。

ものを言うとき、口を手で庇いながら話す人もいる。

この学校で感動するのは、生徒が、真っ直ぐ相手の目を見て話すケースが圧倒的に多いことである。相手の目をしっかり見つめ、絶対に目をそらさずに会話を進める。「育ちがいいんだなあ」「可愛がられて育ったんだなあ」と、こちらまで嬉しくなる。

面接試験の折など、絶対に質問者から目をそらしてはならない。視線の落ち着きだけで、合否が分かるケースも少なくないのである。

人と話をするときには、顔に手を持って行かないこと、相手の目をしっかり見つめて話すことが大切である。

ところでマスクだが、私はマスクを用いたことがない。私のマスク姿を見たことのある人は、先ずない筈である。

ウイルスは、瀬戸の素焼き板を、するすると通り抜ける。マスク如きで、これを妨げることなどできない。風邪の予防の役になど全く立たないと私は考えている。但し、咳き込んだときなど、その飛沫の勢いは風速四十メートルにも達すると聞いた事がある。風邪ウイルスの飛散を防ぎ、他人に迷惑を掛けないためには、いささか役に立つのかも知れない。

高校二年生の修学旅行、今は生徒の安全のため、ハワイに変更したが、昔はロンドン、パリが、お決まりのコースであった。

その際、私は、生徒たちに、ロンドンのピカデリーサーカス、パリのシャンゼリゼを歩く時、

「マスクを掛けている人がいたら教えてくれ」「人数も数えてくれ」と頼んでおいた。

ところが、目撃例は、一件もなかったのである。「花粉が飛ばないから」という声もあった。どう致しまして、マロニエ、いわゆる鈴掛の鈴は、割れて、莫大な量の花粉を飛ばす。日本だけ、どうしてこれほど、マスクが愛好されるのか、その理由は分からない。

「マスク産業と医師会の癒着かな」とも思ったが、そんなことを言って、お医者様に睨まれたら大変だ。

中には、会話しにくいからであろうが、マスクを、顎にずらしている人がいる。そんな人のマスクに限って、薄汚れているケースが多い。いわゆる、「百年の恋もいっぺんに冷める」という奴であろうか。

必要なときに、直ぐ引きずり上げられる、と言う事もあるのかも知れぬが、私は、その人が、人前に顔をさらすことを嫌い、少しでも顔を覆っている方が、精神的に安定するという気持ちになっているのではないかと、不安になる。それならば大変だ。人前に顔をさらし、自信を持って行動できる人間に、自らを改革することが大切である。

「顔に手を持って行くのは衰運の証拠」という人相学の言葉が、矢張り張り気になるのである。

私にも劣等感がある。先ず足が短い。立って話すときには人からの威圧を受ける。顔も並み以下と思うが、そこには多年養ってきた生きる信念があるから、劣等感と言うほどのものはない。しかしまあ、人間全体としては過剰なほどの自信に満ちていると言えるかも知れない。「そこがいやらしい」という人も多いだろうが、そんなことを気にして、人生の嵐を生き抜く事はできない。でもハンサムな男子、すらりと伸びきった四肢を見るとき、心の底から羨ましいとは思ふ。

話すとき、手が前に出る人がある。「ジェスチャーで補わないと発言できない人」という印象をあたえる危険がある。面接の時などに有利ではない。採点者は、君たちが自信に溢れている人物かどうかを見届けたいと願っている。企業の将来を託す人物を求めているのだから、自らに自信のある人物を渴望しているのである。諸君の自信に溢れた個性を示さなくてはならない。相手の目をしっかりと見つめ、顔又は姿勢は、質問者の方に向けて、謙虚ではあるが、質問者に^{けお}気圧されたりはしない人物だということを示さなくてはならないのである。

自信のある人間になれ。このランクの中学、高校に入学してきているのだ。他人に気圧されて何とする。常に自信を持ち、手のひらの陰に隠れたり、マスクの陰に隠れたりしようとする人間であってはならない。

勿論、マスクが大切なこともある。マスクをすると瞳が潤み、美しく見えるというので「マスク美人」という言葉さえ生まれた。しかし、いつもいつもマスクを常用してはならぬ。喉の抵抗力も弱くなってしまわないか。

イートン校は、ハロー、ラグビーと並ぶ名門校だが、ここでは、冬の夜も窓を開けたままで寝させるそうである。さもなければ、咽頭の抵抗力が弱まるという考えからだそうである。

余談だが、チャールズ皇太子は、在学中、いじめられっ子だったという話を聞いた。貴族階級が通うイートンでは、王族といえども特別扱いはしなかった学風を示すものなのであろう。中学、高校の女生徒は、立っているだけで美しい。男子生徒は、明日を物語る知性に溢れている。どちらも美しく、健やかで、老人の目からは眩しい。その素晴らしさを自覚し、己を隠すことなく、威風堂々と生きて行ってくれ給え。